

# 旧田代家住宅

# 秋



朝倉市指定文化財

## 旧田代家住宅

旧田代家住宅は、秋月藩の上級武家屋敷（150石）です。城下町に残された武家屋敷の中でも規模が大きく、主屋・土蔵・門・土塀・庭という屋敷地の要素を全て有しています。平成10年、秋月地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定されると、保存物件として指定され、さらに平成17年に市指定文化財となりました。

建物の年代は、文化11年（1814）9月に田代家焼失の記録が見えることから、その翌年（1815）までには再建されたものと思われます。その後、昭和に至るまで増改築が施されてきました。

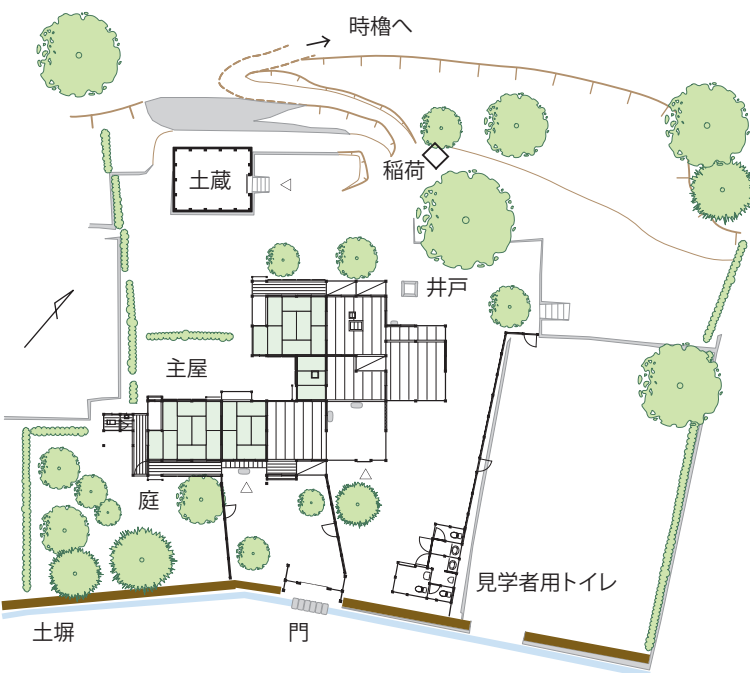
平成13年、田代氏から市へ寄贈されたのが契機となり、市では城下町における公開施設とするため、発掘調査や整備計画の策定を経て、平成19～21年に復元整備を実施してきました。建物復元にあたっては、武家屋敷としての遺構が多く残る江戸後期頃の状態を再現しています。

## 城下の町割り

秋月藩初代藩主黒田長興は、寛永元年（1624）城下の町割りを行います。秋月城の周囲には上級家臣屋敷、盆地の周囲には社寺、城下の出入口には町家を配置します。

田代家のある区域は中央寺と呼ばれ、谷（浅ヶ谷）を挟んで秋月城と対峙する要衝で、田代家以外にも上級家臣が配置されています。文政2年（1819）の城下絵図で見ると、「田代半太夫」の他に、「嶋村源八郎」（130石）、「松崎作左衛門」（250石）の名が見えます。

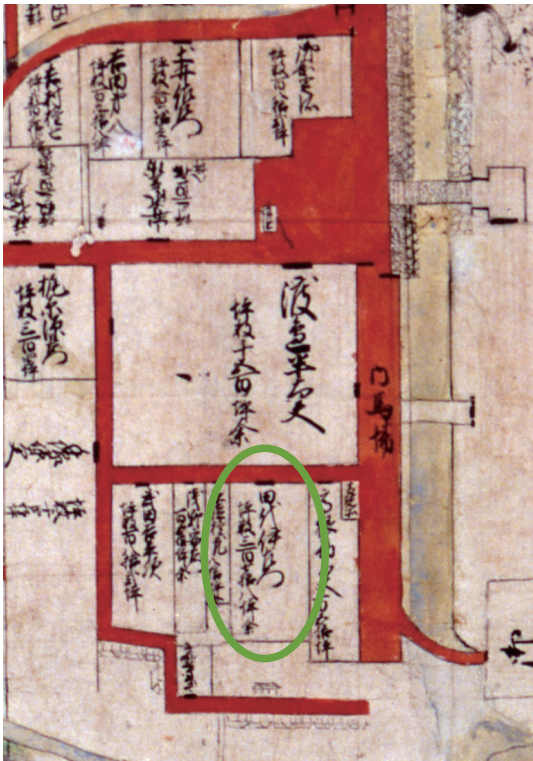
家臣の敷地は、凡そ禄高100石に対し約300坪が割り当てられ、田代家では428坪、嶋村家は600坪、松崎家は810坪の敷地が配分されています。



## 田代家の歴史

田代家は、寛永元年（1624）秋月藩成立時、藩主黒田長興（長政三男）に付けられた家老、田代外記（半七、政純、2,000石）からはじまります。代々家老を勤めますが、貞享元年（1684）2代藩主長重の時、3代目六郎兵衛（政直）が故あって福岡本



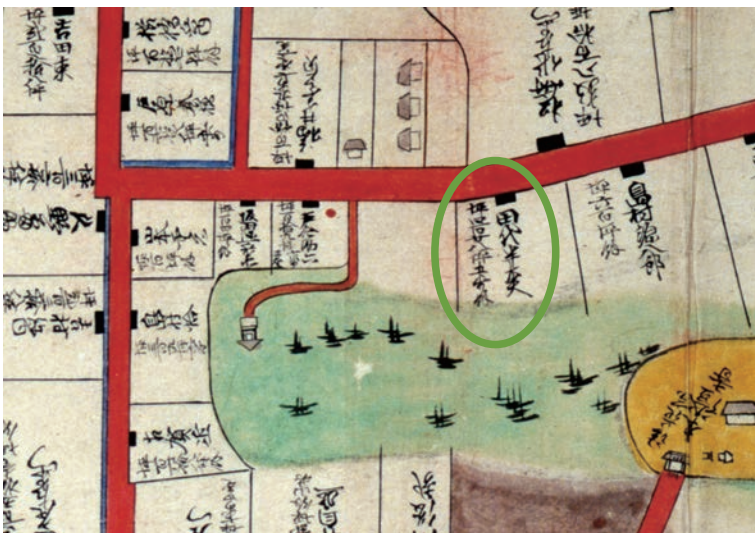


明和五年（一七六八）

藩へ差戻されます。

その後、元禄3年（1690）弟半之進（政招）が長重に召抱えられます。これが当田代家初代（100石）です。同9年（1696）50石加増されて150石となり、以後増減なしで馬廻組頭・鉄砲頭・昇頭・御館留守居・納戸役などの諸役を務め、明治を迎えました。

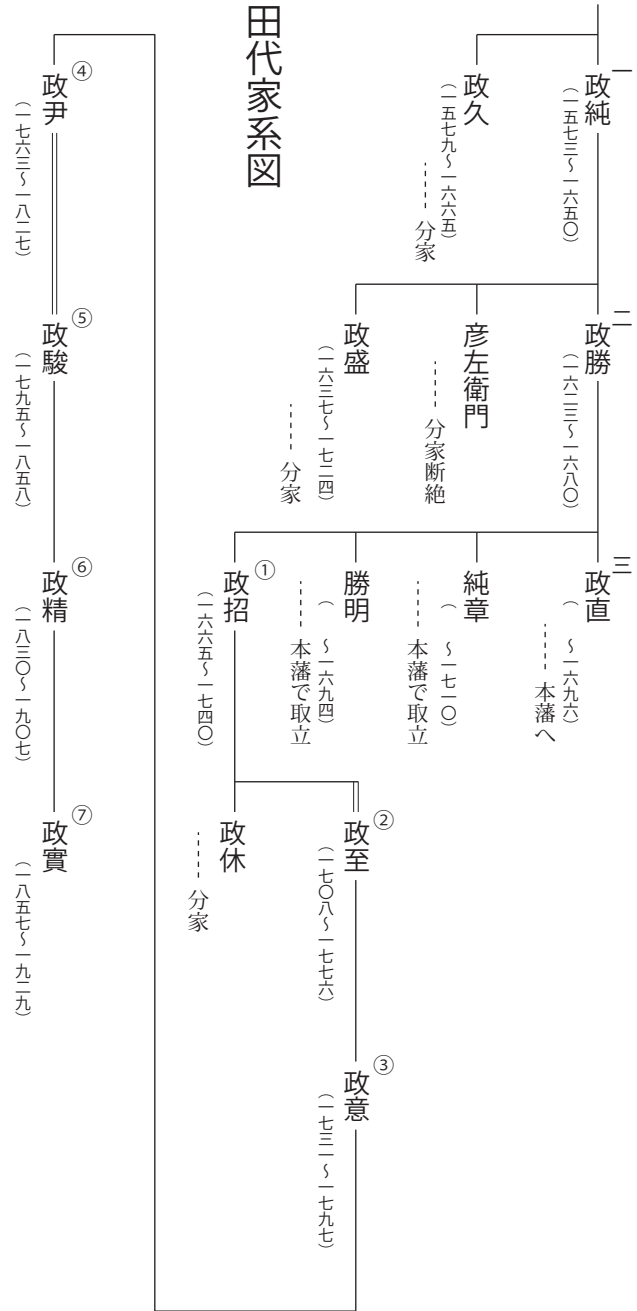
田代家の屋敷は外記から三代までは、後に藩校稽古館が置かれる野鳥橋の南にありました。その後、半之進の時、浅ヶ谷に屋敷地を拝領します。明和5年（1768）の城下絵図には、浅ヶ谷に田代伊左衛門（政意、378坪）の名が見えます。この屋敷では元禄12年（1699）、正徳4年（1714）、宝暦11年（1761）と大火に見



文政二年（一八一九）

\* 秋月城下絵図（明和図・文政図）は福岡県立図書館所蔵

## 田代家系図



舞われます。4代目伊左衛門（政尹）の時、文化3年（1806）にも大火があり屋敷が焼失すると、同6年（1809）頃に現在地（中央寺）へ配置替えとなります。同11年（1814）、田代家土蔵より出火、下隣星野家まで類焼しています。文政2年（1819）の城下絵図に見える田代半太夫（政駿）は5代目にあたります。

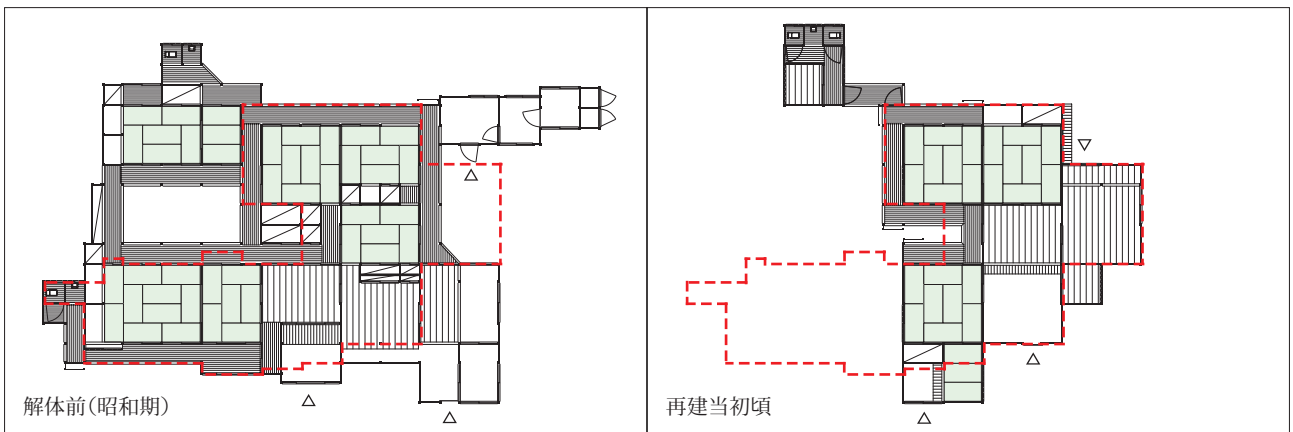
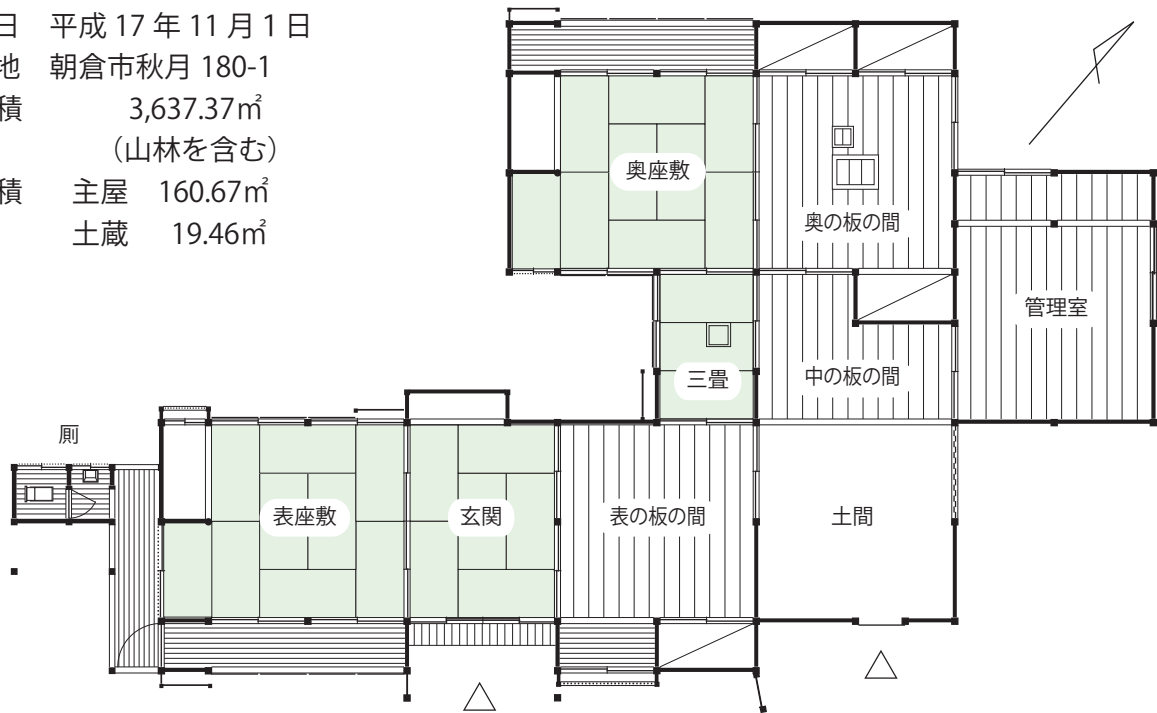


田代家の家紋





指定日 平成 17 年 11 月 1 日  
 所在地 朝倉市秋月 180-1  
 敷地面積 3,637.37㎡  
 (山林を含む)  
 建築面積 主屋 160.67㎡  
 土蔵 19.46㎡



\* 田代家に残る絵図面から推定される再建当初頃の間取りと、解体修復前の間取り。「表の板の間」や「奥座敷」から西側へと増築されていた経過が窺えます。

## 旧田代家住宅周辺の史跡



ひさのけ  
久野家住宅

旧田代家住宅と同じく、上級家臣屋敷（100石、320坪）です。旧田代家には見られない仲間部屋や馬屋、離れなども見ることができます。<sup>ちゅうげん</sup>

（※有料、休館日有）



うらいずみばんしょあと  
浦泉番所跡

城下町の出入口に設けられた番所の一つで、南の出入りを監視していました。古くは温泉が湧き出ていることから湯浦口とも呼ばれていました。<sup>ゆのうらぐち</sup>

### 旧田代家住宅

開館時間 9:00 ~ 16:00

入館料 無料

休館日 12月28日 ~ 1月4日

\*悪天候時には臨時に閉館することがあります。

お問い合わせ先

朝倉市教育委員会文化課

〒838-0068

福岡県朝倉市甘木 198-1

TEL 0946-22-0001 / FAX 0946-23-0697

E-mail bunka@city.asakura.lg.jp

なかしま こうへい  
中島衡平屋敷跡

明治の仇討で知られる白井六郎の父、白井亙理と共に暗殺された陽明学者。明治元（1868、慶応4）年5月、干城隊によって襲撃されました。



とき やぐら  
時櫓

城下町を一望に見渡せる高台で、時刻を知らせる鐘撞堂<sup>かねつきどう</sup>があったことから、この名がつきました。

文化元年（1804）秋月城<sup>すみやぐら</sup>隅櫓が完成すると、櫓から時報を知らせることとなり、鐘撞堂からの時報は停止されました。しかし、よく聞こえないということから、同12年（1815）、鐘撞堂からの時報が再開されました。



月見坂

旧田代家住宅が面する坂道は「月見坂」と呼ばれています。これは、この坂から望む秋月城が真東の方向にあたり、中秋の頃には秋月城の真上、山頂付近から月が昇ることから、中秋の名月を眺める絶好の場所としてこの名がついたと云われています。